

第 21 回日本生命倫理学会年次大会

公募シンポジウムおよび一般演題の募集について

大会長 大林 雅之（東洋英和女学院大学）

日本において「バイオエシックス」というカタカナの語が、1974年にポッターの著書が訳され登場し、30年余が経過しました。その語は「生命倫理」ないし「生命倫理学」と訳され、議論は広がり1989年には本学会の第1回年次大会が開催されるに至りました。それ以来、本大会は21回目となり、丸20年の節目を迎えます。

現在では「生命倫理（学）」は、生命科学・医学研究の倫理から、医療・看護・福祉・環境などに領域が拡大し、「患者中心の医療」、「インフォームド・コンセント」、「倫理委員会」などの言葉も日常的に新聞等に見られるようになりました。そこで本大会では、米国で生まれた「バイオエシックス」が「運動」という形でも進められたことの原点を振り返り、日本における「生命倫理（学）」のこれまでのあり方と、これからの未来へ向けての課題を考える機会にしたいということも含め、統一テーマを「バイオエシックスを未来に！ー「生と死」を考える市民と運動ー」と致しました。

以上の趣旨を踏まえ、本大会では、基調講演、特別講演、大会企画シンポジウム（一部学会企画委員会の企画シンポジウムを含む）を計画しています。そして下記の公募カテゴリーを提示しましたので、それを参考にして頂き、公募シンポジウム、一般演題を応募して下さいますようお願い致します。

記

第 21 回日本生命倫理学会年次大会

会期：平成 21 年 11 月 14 日（土）・15 日（日）

会場：東洋英和女学院大学 横浜校地 5 号館（〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町 32）

大会統一テーマ：＜バイオエシックスを未来に！ー「生と死」を考える市民と運動ー＞（予定）

基調講演（大会長講演）：大林雅之（演題は未定、内容は統一テーマによせたもの）

特別講演：鈴木利廣「患者の権利運動とバイオエシックス～弁護士 33 年を振り返って」（仮）

企画シンポジウム（予定）

- 1) 「バイオエシックスの未来と市民」（仮）
- 2) 「市民運動としてのバイオエシックスと死生学」（仮）
- 3) 「『認知症ケアの倫理 Ethics of Dementia Care』の創造と発展」（仮）
- 4) 「先端医学と協働する次世代型生命倫理」（仮）＜企画委員会案＞
- 5) 「薬・遺伝・倫理ー重なり合う未来に」（仮）＜企画委員会案＞

公募シンポジウム

8 課題程度を採択する予定です。

一般演題

応募多数の場合は採択を行います。原則として口演としますが、ポスター発表希望以外でも、状況によりポスター発表とさせて頂くことがありますのでご了承下さい。

公募カテゴリー（カテゴリー名は暫定的であり、応募状況によってはご希望通りにならない場合があります。）

- A. 生命倫理と市民参加・市民運動
- B. 臨床研究、倫理委員会
- C. 先端医療技術、遺伝子技術、脳神経科学、エンハンスメント
- D. 医療経済、資源配分、救急医療
- E. 看護、福祉、公共政策
- F. 生殖医療と子ども・家族
- G. 高齢期医療と介護、障害
- H. ターミナル・ケア
- I. 死生観と宗教
- J. 環境・自然保護
- K. 医療事故、医薬品評価、患者の権利
- L. 生命倫理教育
- M. その他